

農業技術 プリズム

長崎県では、県オリジナルのラベンダーが生産されてお

輸送温度と輸送時の花穂の発達程度が品質に及ぼす影響

(a) 輸送温度

シミュレーション条件	日持ち日数(日)	シミュレーション終了1日後の褐変葉数
常温輸送	7.4	16.0
低温輸送	16.1	4.2

(b) 花穂着色程度

暗黒処理時の花穂着色程度(割)	開花までの日数(日)	開花率(%)
8、9	19.3	88.7
10(慣行)	8.3	62.9

ラベンダーの海外輸送

低温で日持ち2倍に 下葉枯れなども改善

た、ラベンダーは、多数の小花からなる花穂全体が紫色に色づき、小花の一つ一つが開花しますが、着荷後の小花の開花が進まないことも課題です。

り、香港への輸出も行っています。海外への輸送は、常温・暗黒下で長期間行われるため、着荷後に花穂や下葉の枯れが起こることがあります。ま

そこで、鉢物の低温輸送の有効性の検証と、輸送における最適な花穂の着色程度を明らかにしました。

試験は、暗黒状態で6日間、低温輸送区と常温輸送区を設定し、輸送シミュレーションを行った後、室内で日持ち調査を行いました。

また、低温輸送開始時の花穂の着色程度が異なる二つの試験区を設定し、各区の低温輸送後の開花率を調査しました。

輸送温度は、低温にするこ
とで日持ち日数が2倍以上延
長し、下葉の枯れが軽減され
ました(表)。

また、花穂が8、9割着色
した状態で低温輸送を行う
と、輸送終了後から開花ま
での日数が約19日で、1花穂
当たりの小花の開花率が88%
と高くなり、長期輸送で適切
に品質保持することが可能と
なりました。

(県農林技術開発センター
農産園芸研究部門花き・生物
工学研究室研究員 渡川友里
恵)